

1) わが国の慢性透析療法の要約

日本透析医学会は、1968年から毎年毎に、全国の透析療法施設を対象に統計調査を行っている。調査票は、施設調査票（透析ベッド数、スタッフ数、患者数などの施設背景に関する調査）と、患者調査票（個々の患者に関する調査）からなっている。

2014年末の統計調査は全国の4,367施設を対象に実施され、4,330施設から回答が寄せられた。2013年末から62施設の増加である。施設調査票の回収率は99.2%、患者調査票の回収率は96.0%であり、例年通りの回収率であった。調査に協力賜った各施設のご好意ならびに地域協力委員の諸兄に対し、紙面をお借りして深甚なる感謝の意を呈したい。

2013年末のわが国の慢性透析療法の現況までは、速報値を用いた速報版として報告して来たが、2014年末のわが国の慢性透析療法の現況からは、従来CD-ROM版で用いていた確定値にて集計・解析されている。なお、患者数の推移など経年的な過去の値は、これまで同様すべて確定値で記載している。

(1) わが国の慢性透析療法の要約 (図表1)

| | | | | |
|-----|-------------|----------|------------|-------|
| 施設数 | | 4,330施設 | (62施設増) | 1.5%増 |
| 設備 | ベッドサイドコンソール | 131,555台 | (3,405台増) | 2.7%増 |
| 能力 | 同時透析 | 129,860人 | (3,600人増) | 2.9%増 |
| | 最大収容能力 | 432,433人 | (10,272人増) | 2.4%増 |

| | | |
|--------|----------|-----------|
| 慢性透析患者 | 320,448人 | (6,010人増) |
|--------|----------|-----------|

※慢性透析患者の総数は、施設調査票 患者総数欄の合計であり、治療方法別患者数の合計とは必ずしも一致しない。

| | | |
|----------|----------|----------|
| 人口100万対比 | 2,517.3人 | (47.2人増) |
|----------|----------|----------|

| | | |
|------|----------|---------|
| 昼間 | 269,393人 | (84.1%) |
| 夜間 | 41,271人 | (12.9%) |
| 在宅血液 | 529人 | (0.2%) |
| 腹膜透析 | 9,255人 | (2.9%) |

| | |
|---------------------------------------|--------|
| HD、HDF等とPDを併用している患者数 | 1,913人 |
| HD、HDF等施行患者で、腹膜カテーテルを残し洗浄などを行っている患者数 | 278人 |
| 腹膜透析で新規導入したが、2014年中にHD、HDF等へ移行した脱落患者数 | 193人 |

| | | | |
|-------|---------|---------|-------|
| 導入患者数 | 38,327人 | (232人増) | 0.6%増 |
| 死亡患者数 | 30,707人 | (44人減) | 0.1%減 |

上記は施設調査による集計

| | 男性 | 女性 | 不詳 | 計 | |
|-----------------|--------|--------|----|---------|---------|
| 5年未満透析患者数 | 98,411 | 47,674 | 0 | 146,085 | (47.1%) |
| 5年以上10年未満透析患者数 | 49,893 | 27,969 | 0 | 77,862 | (25.1%) |
| 10年以上15年未満透析患者数 | 24,330 | 15,702 | 0 | 40,032 | (12.9%) |
| 15年以上20年未満透析患者数 | 12,178 | 9,035 | 0 | 21,213 | (6.8%) |
| 20年以上25年未満透析患者数 | 6,368 | 5,434 | 0 | 11,802 | (3.8%) |
| 25年以上30年未満透析患者数 | 3,450 | 3,101 | 0 | 6,551 | (2.1%) |
| 30年以上35年未満透析患者数 | 2,091 | 1,869 | 0 | 3,960 | (1.3%) |
| 35年以上透析患者数 | 1,359 | 1,158 | 0 | 2,517 | (0.8%) |
| 不詳 (不明・記載なし) | 61 | 25 | 0 | 86 | (0.0%) |

※透析歴別患者数は患者調査票より算出

患者調査による集計

| | |
|-------|---------|
| 最長透析歴 | 46年6 ヶ月 |
|-------|---------|

患者調査による集計

解説

今回の調査で回答された施設は4,330施設となり、前年度と比べ62施設（1.5%）増加した。ベッドサイドコンソールは131,555台であり3,405台の増加、同時透析可能人数は129,860人、最大収容能力は432,433人であり、それぞれ2013年末と比較して、2.7%、2.9%、2.4%の増加であった。

一方、透析スケジュール別にみると、昼間透析の割合は84.1%で0.4ポイントの増加、夜間透析は12.9%で0.3ポイント減少した。在宅血液透析患者は529人であり、68人増加した。一方、腹膜透析（PD）患者数は9,255人で、全透析患者数に占める割合は2.9%となっている。PD施行中で血液透析（HD）・血液濾過透析（HDF）等を併用しているか、HD・HDFを週2回以上行っている患者（主たる治療法がHD・HDFの患者）でPDも併用している、PDとHD・HDFとの併用患者は1,913人で7人減少した。現在は体外循環による透析療法を行っているが、以前腹膜透析を行っていたため腹膜カテーテルを残して洗浄のみ実施している患者は278人で14人減少した。2014年に腹膜透析で新規導入されたが2014年中に体外循環による透析治療に移行し、腹膜透析から脱落した患者は193人であり、2013年と比較して、19人増加した。

20年以上の透析患者数は24,830人で前年と比べ643人増加し、全透析患者の中の割合で8.0%と漸増している。最長透析歴は46年6 ヶ月であった。